

# ハウス内環境の見える化による メロンの少量土壌培地耕栽培の技術習得

東近江農業普及指導センター

## 【普及活動のねらい・対象】

T氏は、平成31年に、2棟のハウスで少量土壌培地耕と土耕のメロンに取り組みましたが、少量土壌培地耕では出荷規格に合う果実が少なかったため、キュウリに品目転換されました。しかし、キュウリとメロンは作業が競合し目標の売上が確保できていないため、直売所での需要があるメロン栽培に集中し、売上を確保したいとの相談がありました。そこで、ハウス内環境の見える化を通じてメロンの少量土壌培地耕に適した管理を実践し技術習得できるよう支援しました。

## 【普及活動の内容】

栽培を開始する前に、以前に少量土壌培地耕に取り組み始めた時の状況を聞き取ったところ、養水管理と温湿度管理が土耕に近い管理になっていたことが分かりました。そこで、土耕栽培と少量土壌培地耕栽培との違いを説明し、特に給液回数やその増減のタイミングが異なることを理解してもらいました。

今後自らが判断し実践されることを目指し、リアルタイムでハウス内の温湿度を計測できるセンサーを設置し、計測値をT氏と確認しながら生育ステージに合った温湿度に近づけていく管理ができるように支援しました。定期的な現地指導と併せて、訪問の際はT氏と共にメロンの生育状況を見ながら理解をすすめ、最適な栽培管理の実践につなげました。開花期や玉肥大期など、栽培管理でポイントになる時期は重点的に技術習得支援を行いました。



写真1 収穫作業の様子

## 【普及活動の成果】

T氏と共に生育状況やハウス内の温湿度データを見ながら樹勢や天候に合わせて養液・温湿度管理できるように支援したことで、定植後初期の養液濃度や蒸し込み管理に栽培管理のポイントがあることを理解されました。定植から収穫までの一連の栽培技術について理解がすすみ、栽培管理の実践が行われたことにより、出荷率は92%、収量は2,100kg/10aと大きく改善されました。今後は、少量土壌培地耕の栽培面積拡大に加え、秀品率と収量の向上による所得向上に向けて、引き続き自らが判断し栽培管理ができるよう支援します。

### ◎対象者の意見

今年度はしっかり収量をとることができたので良かったです。来年は栽培面積を増やして取り組むので、引き続き支援をお願いしたいです。(認定農業者T氏)